

## プールでつながる隼の輪

八頭町隼地区公民館

隼地区公民館は世帯数約300の少子高齢化が進む中山間地にあり、旧隼小学校区を対象地区として活動をしています。

特徴的な活動として、50回を数える「隼プール祭り」と、今年55回目を迎える「隼地区駅伝競走大会」があり、いずれも半世紀以上続く公民館事業となっています。

特に、「隼プール祭り」は、昭和5年に竣工した山陰初の長水路(50m)プールによって多くの名選手を輩出し、青少年の体位向上に貢献したことに併せて、隼プールの一層の発展を記念し、昭和41年から開催しています。

また、昭和29年中国5県高校選手権大会時に制定された水泳の歌「しぶきをあげて」は、プールに関連する特徴の一つであり、今も隼地区で歌い継がれています。



清掃終了後ドローンで集合写真

このように、長い歴史を持つ隼プールは地区住民にとっても強い思いがあり、老若男女を問わず、水泳選手として栄誉を得た人、練習で苦しい思いしたことなど、今でも懐かしい思いを語る人が多く、皆にとって心のより所となっています。

このように、プールは地区で守るとの思いから、公民館事業として、5月末には「隼プルー斉清掃」(地区のボランティア、日赤奉仕団、地区子ども会、学校関係者、行政が参加)を行っています。

また、水泳シーズンには地元の有志でプール管理組合を組織し、塩素濃度の測定や塩素の投入、プール周囲の清掃などのプール管理を八頭町から受託し行っています。

全国的にもあまり例がないのではと思われる「隼プール祭り」ですが、2019年には50回記念の祭りとして、オリンピック4大会出場の松田丈志さんと八頭町観光大使で落語家の桂三風さんをお招きし、盛大に開催しました。

朝から会場設営をしていただいた隼地区の皆さんありがとうございました。



松田さんによる実技指導の様子

第一部(昼間の部)では「松田丈志さんの水泳教室」として、松田丈志さんに八頭中学校水泳部の皆さんへ実技指導を行っていただきました。松田さんがプールサイドに現れると、あちらこちらから黄色い声が上がりました。水泳部の皆さんにとっては一生の思い出となったことでしょう。その後会場を隼Lab.(旧小学校を改築した地区拠点施設)へ移し、桂三風さんの進行でトークショーを行いました。



人数を制限しましたが、満員でした

松田さんがオリンピックで獲得したメダルにも触れさせていただけるなど、参集していた皆さんは大感激でした。参加者から質問が多数出るなど、大きな盛り上がりを見せました。

トークショーの中で松田さんから「高い目標設定で練習しないと、本番での目標達成は困難」という発言と、桂三風さんから「高座で15分の演目をやるとき、稽古ではそれよりも早く演じる」という言葉は印象的でした。

第二部(夕方の部)では、過去に「水泳隼」に貢献された方を表彰する「水泳功労者表彰」を行い、引き続いてオープニングステージと称し、隼地区子ども会による水泳の歌「しぶきをあげて」の合唱です。この歌は、隼小学校が閉校となり、統合された小学校では歌われることが無くなった歌です。ちなみに隼地区子ども会は隼小学校が閉校した後に地区の伝統を継承することを目的の一つとして結成しています。その制定から66年の長きに渡って歌い継がれた歌を精一杯歌ってくれました。

その後、子どもたちによる「花笠踊り」、西谷傘踊り保存会による「傘踊り」、「小学生リレー」、「宝拾い」、「総踊り」、「イカダレース」、「競泳」と盛りだくさんの内容が続きました。

そして、当日のメインは、八頭町観光大使の桂三風さんによるプールサイドでの寄席「桂三風寄席 in 隼プール祭り」です。夕方から薄暮に至るまでの間ピンマイクひとつで熱演していただきました。



アッ間違えた。まあいいか

三風さんにはトークショーからの再出演で隼地区の皆さんを笑いに誘い、勇気づけていただいた日でもありました。

このように、隼地区の方々が隼プールに熱い思いを抱き、今では泳ぐことが無くなった方も含め、プールの一斉清掃への参加や、選手・観覧者・裏方を含め隼プール祭りに参加することでプールが地区にとって大切な存在であることを再認識し、また隼地区のみんなをつなぐ拠り所となっていることに気づかされた一日となりました。



ここ笑うところだけだな～



プール壁画もリニューアルしました！！